

# 日々の祈り

2021年10月25日(月)~30日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・神さまに従い、隣人を愛することができるように。  
(誰かの名前をあげて、執り成しの祈りをしましょう。)
- ・宮崎の地で福音が広く宣べ伝えられるように。
- ・日本の政治のために。

## 25日(月)

ルカによる福音書 18章 40節

イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。救いを求める者を、イエスさまは御自分の許にお招きになります。そして、出会って下さり、憐れみを与え、癒しを与え、神さまとの新しい関係に生きる命を与えて下さいます。そして、神の御子イエスさまに救いを求めること。イエスさまに招かれて、やっと御許に近づくこと。それをイエスさまは「あなたの信仰」と呼んで、祝福して下さいます。

## 26日(火)

ルカによる福音書 4章 18~21節

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

今や、イザヤ書に語られていた救いが、イエスさまによって実現しています。わたしたちが主の日ごとに教会に集められ、神さまを礼拝し、福音を告げられ、恵みを見つめ、救いの御言葉を聞いている。この現実こそ、イエスさまが救いを実現して下さいました確かな証拠です。

27日(水)

ホセア書 6章 3節

我々は主を知ろう。主を知ることがを追い求めよう。主は曙の光のように必ず現れ／降り注ぐ雨のように／大地を潤す春雨のように／我々を訪れてくださる。

わたしたちは罪と死に捕らえられ、闇の中にいましたが、主が曙の光のように現れて下さいました。わたしたちは飢え渇き、枯れ果てていましたが、主が降り注ぐ雨のように、大地を潤す春雨のように、わたしたちを訪れて下さいました。イエスさまによって、わたしたちは光の中を歩む者とされ、新しい命を注がれ、まことに生きることが出来ます。この方を、知りましょう。この方をますます知ることがを、追い求めましょう。

28日(木)

ヨハネによる福音書 10章 11節

わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

羊の群れの中には、勝手に群れを離れてしまう羊、言うことをきかない羊、仲間をいじめる羊もいるかも知れません。そんな羊のために、羊飼いが自分の命を捨ててよいでしょうか。しかし、イエスさまは言われました。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」イエスさまは、愛されるはずがない、助けられるはずがない、救われるはずがない、そうわたしたちが思う羊をも、ご自分のものとして大切にされ、わたしたちの思いを超えた愛を注ぎ、ご自分の命と引き換えにしてもその羊を救う、と言われます。この良い羊飼いに養われる羊は、何と幸いなことでしょうか。そして、その羊は他でもない、わたしたちのことなのです。

29日(金)

エゼキエル書 34章 11~12節

まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探るように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。

次の主日礼拝の御言葉です。よく聖書においては、神さまが羊を飼う牧者、そして罪のために迷い出たわたしたちが羊にたとえられます。牧者は御自分のものである一匹一匹の羊のことをよく知っておられ、どれだけちりぢりに散らされてしまっても、「すべての場所から救い出す」と言って下さいます。わたしたちは見出され、導かれ、安心して、この牧者の許で憩うことが出来るのです。

30日(土)

ルカによる福音書 19章 10節

人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。

明日の主日礼拝の御言葉です。ザアカイという徴税人がおりました。ユダヤ人において「徴税人」は、異邦人の手下であり、搾取して私腹を肥やす者も多かったことから、罪人の最たる者として扱われていました。ザアカイと親しくなるなら、罪人の仲間と思われても仕方ありません。ところがイエスさまは、このザアカイに目を留められ、ザアカイの家に泊まりたいと仰ったのです。ザアカイはイエスさまを喜んで受け入れました。しかし、実はザアカイこそ、先にイエスさまに受け入れられ、交わりへと招かれたのです。イエスさまは失われたものを捜して救うために来られた方だからです。

聖句: 日本聖書協会『聖書 新共同訳』